

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム ぼらん千厩 (シグナレス)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900116		
法人名	特定非営利活動法人なごみ		
事業所名	グループホーム ぼらん千厩 (シグナレス)		
所在地	〒029-0803 一関市千厩町千厩字前田229		
自己評価作成日	令和7年12月15日	評価結果市町村受理日	令和8年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou</a>
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「みんなで一緒に思いやりのある笑顔のあふれる普通の生活」という法人介護理念に基づき、利用者様が日々の生活を安心して楽しく過ごしていただけるよう、尊厳を大切にしながら支援しています。また、利用者様とご家族様の繋がりを大切にするため、感染予防に留意しながら、外出や外泊の機会を設けており、大変喜ばれております。職員には外部研修への参加機会を積極的に設けたり、資格取得を促すことにより、質の高いサービスの提供に繋げられるよう、モチベーションも重視しながらスキルアップの啓発も行っています。さらに、地域の一員として自治会へ加入し、地域行事へ定期的に参加するなど、地域との繋がりを強められるよう意識して取り組んでいます。地域ケア会議や個別ケア会議にも積極的に参加してネットワークを構築し、地域に根差した安心した施設であるよう努めています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和8年1月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町の中心部に位置し、避難場所に指定されている市民センターに近い立地となっている。近年は自立度が高い利用者の割合が多く、家族も利用者との外出や外泊など一緒に過ごしたいと希望される方が多いことから、家族と疎遠の利用者の外出を職員がフォローするようにして施設外での活動機会の提供が図られている。調理スタッフを配置しており、毎食手作りによる食事を提供している。誕生日には利用者の希望を反映した献立や希望の多い郷土料理などの工夫が見られ食事を楽しむことができています。対面による運営推進会議が再開され、地域住民の相談を受け関係機関と連携できたことなど、地域における施設の専門性による地域貢献が図られている。かかりつけ医療機関や訪問看護等と連携し、看取りの体制を確保しているが、これまでに看取りの希望や実績がなく、また、看取りを経験している職員も少ないため今後研修等の取り組みが課題と認識されている。利用者本人や家族からの信頼が厚く、安全に安心して暮らすことのできる環境が整っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼらん千厩 (シグナレス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念を事務室や職員の名札の裏に明記している。また、ミーティング時には唱和の機会を設け、新人研修の際には一番最初に理念の教育を行っている。	7項目からなる介護理念は事業所開設時から継続している。職員は名札に添付して携行しており、毎月のミーティングにおいて理念を全員で唱和し、振り返りの機会としている。月ごとに重点的に取り組む項目を決め、日々の介護支援に反映させるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	昨年度より、自治会に加入し、地域の清掃活動に参加している。また、今年度は班長も努めており、集金や広報誌等の配布も行っている。以前より地域住民との関わりが深く持てるようになった。	昨年度から自治会に加入しており、自治会の班長として利用者とともに近所5軒に広報紙を配布し、年4回の朝清掃にも職員が参加している。コロナ禍により小中高生との交流の機会は無くなったが、運営推進会議のメンバーでもある「いきいきサロン」のメンバーから野菜の差し入れや施設清掃の手伝いをいただくなど、地域の方々との交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域住民との関わりが多くなり、入居相談や地域に暮らす認知症の方の相談を受けることが多くなっている。認知症実践者研修を受講した職員や有資格者も多く在籍していることから、地域からの相談に対し真摯に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1度運営推進会議を実施している。事業所の活動報告にとどまらず、施設としての現状や問題点を報告し、地域の方々への見守り依頼などを行っている。民生委員や行政職員とも地域の課題について話し合うことができおり、情報共有や信頼関係の構築がなされている。	これまでは書面報告であったが、現在は対面で会議を開催している。質問や意見、情報交換は活発に行なわれ、近隣の認知症の方の情報をもとに、適切なサービスの提供につなげることができた例もある。地域から、駐車場における砂利の飛散、浄化槽からの悪臭の訴えがあり対応に努めているが、根本的な改善については法人本部に上申し解決に努めている。	利用者状況や事業所の課題、地域の防犯、災害対応等の専門的な情報共有の機会として、警察署員を臨時的なメンバーとして出席要請することを検討されるよう期待します。

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼらん千厩 (シグナレス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域ケア会議や個別ケア会議に多く参加しており、地域の課題について定期的に情報共有している。また、事故報告や施設運営における問題点や疑問点に関しても積極的に市の担当者に相談し、誠実な施設運営が行えるよう努めている。また、行政から入居に関する相談も多く、入居に繋げるケースもあり、協力関係を築いている。	地域包括支援センター職員が運営推進会議メンバーとして参加しており、随時情報交換、共有が図られている。また、利用者2人が生活保護を受給しており定期的にケースワーカーが訪れている。身寄りが無くなった方の後見人の選任についても、担当の方から様々な助言をいただき解決につながるなど、市との連携・協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を3か月に1度開催し、研修会も実施している。帰宅願望の強い利用者が在籍しているときには、玄関の鍵を施錠し離設防止に努めているが、それは正しい判断か、別な対応策はないか、鍵の施錠時間を減らせないと、委員会のみならずミーティングでも定期的に話し合いの機会を設け、意識付けを行っている。	3か月に1回、各ユニットから担当と当日出席可能な職員が集まり委員会を開催している。帰宅願望が強い方の玄関の施錠など、実施から開錠までを記録し、家族に報告し、随時必要性の有無について意見交換を行っている。年2回の研修では、身体拘束や転倒予防の対策などを検討している。不穏な状況から離設に至る利用者については、運営推進会議を通して近隣の方に情報を提供し協力をお願いしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会を設置し、管理者、主任、リーダーが中心となって虐待における意識調査や、日頃の現状報告を行っている。虐待に近い言動が見受けられた時、指導し改善に繋がれること、虐待及びハラスメントが発生した際に職員が相談しやすいような関係作りを重視して活動している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用していた利用者がいた際には、保佐人様から制度や支援内容を沢山学び、個別ケア会議も定期的に参加した。生前戒名や墓じまいの相談、緊急時対応、葬儀屋への相談にも同行するなど貴重な経験をした。職員間でも常に情報や取り組みを共有している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼらん千厩 (シグナレス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関しては、事前に重要事項説明を行い、契約時にも改めて説明している。不明な点は理解いただけるまで説明し、契約後、状況が変化した際にも、しっかりと説明の機会を設け理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様の嗜好や思いを汲み取れるよう、日頃から居室担当を中心に関わりを多く持つよう意識して対応している。また、ケアプラン作成時や近況報告の際には、一方的な報告だけにならないよう、ご家族様の意見を伺い、一緒に支援方法を検討し経過報告もこまめに行っている。	利用者家族からは、面会や通院、ケアプラン説明の際など随時意見、要望等を聴いている。毎月の請求書に合わせ、利用者の笑顔を撮影した「ベストショット」を居室担当者が手作りで作成し、家族に送付している。通院後の外出や外泊を希望する方が多く、その要望に応えるようにしている。	利用者個々のベストショットに加え、運営推進会議で紹介されている全体的な事業所の行事や活動の様子など、ご家族への情報提供がさらに充実することを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	現状、主任とリーダー、介護員、事務員、調理員と様々な職種の職員がいる中で、なかなかうまくコミュニケーションが図れていない部分が見受けられている。それぞれの立場の思いや提案があることから、主任やリーダーが積極的にコミュニケーションを図ること、管理者が円滑な関係作りが行えるよう、少しずつ会話の機会を持つよう努めている。	毎月のミーティングで、全体的な意見交換を行っている。生産性向上委員会を設置しており、記録の取り方や無理、無駄、ムラのない取り組みについても検討している。両ユニット職員が顔を合わせるイベントや活動、研修の機会を設け、双方の利用者へのケアの方法について理解を深めるように努めている。研修受講や資格取得等については管理者がそれぞれの意向を確認している。	管理者と職員との個別面談を定期的に実施し、職員の意向、意見、提案などが事業所運営に反映されるよう期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	スキルアップを目指す職員が多くいることから、積極的に研修会への参加や資格取得を促している。就労に関しては、家庭事情や体調を考慮した勤務体制を可能な限り実現し、職員全員に理解を得ている。設備や備品に関しては、法人長に相談し、回収や物品購入を即座に行っていただくことで、ストレスの少ない職場環境を整えている。		

事業所名 : グループホーム ぼらん千厩 (シグナレス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の研修等には、職員が満遍なく受講できるように調整している。また、新人指導の際には、研修期間を長く設けたり、その職員の能力や理解力に応じた同行回数の変更や細かい指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	現在は、自施設で起きた身寄りなし問題のケースを基に、包括支援センター・医療相談室・介護施設・社会福祉士(保佐人)が集いZOOMにて行われる3か月に1度の研修会に参加している。地域住民や住職、葬儀屋にも参加いただき、地域全体で身寄りなし問題に取り組むなどネットワークの構築が進んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前調査や面談の際には、自己紹介をしっかりと行い、生活の不安や悩みなども細かく伺っている。施設生活が想像できない方もおり、不安が強い方には、実際の利用者様の様子や職員との関わり方を説明して、安心できる説明を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様のほとんどの方が初めて施設利用をする場合が多いことから、施設の概要を理解できるよう努めている。入居相談の段階から要望や不安点などを伺い、時間をかけて説明することで、利用開始の際も、安心して入居されるよう努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼらん千厩 (シグナレス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご自宅での問題や不安を伺い、望むケアの要望を伺うだけではなく、入居直後に起こるご本人様の変化等も予測しながら、ご家族様と対応方法などについて事前に話し合うことも行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人様の残存能力や意欲を汲み取り、活動機会を設けながら生き生きとした生活を送れるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ベストショットやメールを利用して、ご本人様の近況報告を行っている。外出や外泊の機会を設けていただいたり、家族旅行に行った方もいた。病院受診は基本的にご家族様をお願いしており、健康状態の把握も行えるよう協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの美容院へ出かけることで、入居前の暮らしが継続できている。また、ご家族様の了解のもと、ご友人と外出していただいたり、ドライブの際には、ご自宅周辺に出かけ、近隣住民の方と何年振りかでお会いするなど楽しみの機会を設けている。	3人の利用者が家族の付き添いで馴染みの美容院を利用している。それ以外の方は3か月ごとに訪問してくれる理美容師を利用し、新たな馴染みとなっている。家族以外にも自宅の近所の方、友人などの馴染みの方の訪問、面会がある。スーパーへの買い物のほか、正月には混雑を避けて日程を調整しながら初詣にも出掛けるようにして、馴染みの継続に努めている。	

事業所名 : グループホーム ぼらん千厩 (シグナレス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関わりの機会を作り、職員が橋渡しをしながら円滑で安心な生活が送れるよう努めている。座席は相性を見極めたり、時折席替えをするなどして、暮らしやすい環境作りも心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ホーム外でお会いした際には挨拶を行い、近況報告などを行っている。また、転居した後も、転居先やご家族様からご本人様の様子を伺うこともあり、関わりを続けている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で、言動や表情から一人ひとりの意向の把握に努めている。内容は記録に残し、職員間で共有したり、ご家族様へ報告し、可能な限り意向を実現できるよう努めている。	ほぼ全員が言葉による意思表示が可能であり、見たいテレビ番組を希望したり、食べたい食事のメニュー、手芸、裁縫や計算ドリルの趣味、活動についての希望や意向が職員に伝えられ、それぞれにきちんと対応することができている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人様とご家族様から、嗜好やルーティンなどを尊重した生活が送れるよう事前調査の段階で細かく情報を得るように努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼらん千厩 (シグナレス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	独居だった方が入居されることが多く、ご家族様でも日頃の状況や嗜好を把握できていないことが多いため、情報をうまく繋げられないことがある。その際は意向を十分に聞き取って支援に繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	申し送りやミーティングを充実させ、利用者様の状況の把握や、支援の検討などを積極的に行っている。また、受診時には、受診前報告書を作成し、バイタル表と共に医師に提出して日頃の様子を伝えている。それぞれの情報をケアプランに反映させている。	管理者が両ユニットのケアプランを作成している。家族からの要望等を聴き取りながら、居室担当者がモニタリングし、短期6か月、長期12か月を原則に、介護度の変更や病状の変化などに応じ、適宜プランの変更を行っている。プラン変更については、通院や面会等の際に家族に説明しているほか、遠方に在住の家族にはメール等で報告している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子や健康状態、受診内容や言動は全てIpadにて記録している。連絡ノートも活用し、重要事項や変化、意向を漏らさず共有できるように努め、ケアプラン更新時には、得た情報を見返しながら作成し直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族様と疎遠な利用者様もいらっしゃることから、地域包括や生活保護担当者、保佐人様にご協力いただきながら支援を行っている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼらん千厩 (シグナレス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	利用者様が地域行事に参加することは少ない状況のため、関わりを持つ機会を作れるよう努めたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族様が遠方に住んでおり、通院介助が行えない方や緊急時には施設で対応している。また、往診も行っていたりしていることから、職員で対応が困難な時にはとても助かっており、不安なこともすぐに相談に乗っていただいている。	入居前からのかかりつけの医療機関に受診している方が多い。家族の付き添いを基本としているが、訪問診療を利用している方も多い。皮膚科など一関市内まで通院する際は、職員が付き添うこともある。通院、受診時には前回受診以降の生活状況と相談事項を家族にお渡ししている。年に1回は職員も通院に付き添い医療機関との連携を図っている。週1回の訪問看護もお願いし、万全な健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護が週に1度来訪していることから、健康相談を行っている。利用者様の健康状態は必ず記録に残し、経過報告等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、定期的に病棟へ経過を伺っている。また、施設に戻れるかどうか不明な場合は、医療連携相談室にも相談しながら、その方の健康と生活を守れるよう努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼらん千厩 (シグナレス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居の際に看取りの指針を説明し、早い段階からご本人様とご家族様に意向を確認している。入居後も主治医と共に、状態と予後を共有しながら、家族も交えて支援方法を検討している。	病状の進行や介護度3以上になった時点で家族に施設の変更や住み替えの検討を勧め、看取りの希望などの意向を確認している。事業所の体制上、かかりつけ医師、訪問看護師と連携して看取りは可能であるが、事業所開設以来、看取りを希望する利用者はなく、経験も無い。今後、看取りを経験した職員が少ないこともあり、職員への研修を予定したいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	現在、救命救急講習が定期的に行えていない状況であることから早期に機会を設けたいと考えている。事故発生時や急変時のマニュアルを整備し、内部研修会などで勉強している。県立病院より、講師派遣の案内が来ているので、勉強会を開催したい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	BCP計画を作成し、災害時や感染症発生時に備えている。知識のみならず、必要物資の確保や保管等も行っている。また、避難訓練は定期的を開催しており、地域住民や避難場所にも協力をいただいた訓練も実施した。	6月に総合防災訓練、12月に避難訓練を実施している。総合防災訓練では地域住民の参加協力もいただいている。ハザードマップ上、土砂災害対象区域にあることから、土砂災害を想定した訓練を今後取入れていきたいとしている。指定避難場所である市民センターには、地域住民(運営推進会議委員)、市民センター職員とともに避難し、避難場所の部屋、トイレなどの環境を確認している。非常用発電機はシグナル棟に設置されている。飲料水、食料品、反射ストーブ等を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員間での申し送りの際には、イニシャルを用いてプライバシーに考慮した会話を行っている。また、言葉遣いや距離感にも注意しながらコミュニケーションを図っている。	日常の申し送りは、利用者のそばで行うため、イニシャルを用いての申し送りを徹底している。異性による介助を拒まれる方はいないが、入浴や排せつ時には羞恥心等プライバシーに配慮している。入浴時の洗身、洗髪など自分でできる部分はご自身で行ってもらっている。対外的な写真提供等は随時家族の了解をいただきながら行うなど、厳格な対応が取られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	判断能力に関係なく、まずはご本人様の意向をしっかりと聞くことや、選択肢を設けて希望を聞き出せるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事や活動の声かけは行うものの、ご本人様の気分や意思を尊重しながら、ご自分のペースで過ごしていただいている。希望があれば、極力叶えられるよう職員間で調整している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣替えは担当職員が行い、定期的に服の購入なども行っている。散髪は3か月に1度訪問床屋を依頼し整えていただいている。なじみの美容室へ行くこともある。		

事業所名 : グループホーム ぼらん千厩 (シグナレス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	旬の野菜を使用し季節を感じていただける献立を考えたり、自分達で育てた野菜を使って調理している。希望食も取り入れている。また、茶碗拭きやテーブル拭きなど、お手伝いを積極的に行ってくださる方が多いので、順番を決めて声がけをしながら手伝っていただいている。	各ユニットに調理担当職員を配置し、毎食手作りによる食事を提供している。食材は調理員が購入してくるほか、ピーマン、ナスなどの野菜類は自家菜園で育てたものも使用している。季節の行事や節句などに合わせた献立、差し入れていただいた食材に応じたメニューを提供している。誕生日には希望を聴き取り献立に反映させている。すいとん、サンマすり身汁、葉焼きなどの郷土料理が好まれ、楽しんで食事をとっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量や水分量は都度記録に残している。利用者一人ひとりに合った食事量の検討や、医師の指示に従った提供を行っている。体重の推移も気にかけてながら、医師に相談するなどして、健康状態に影響が出ないように考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の口腔ケアを自ら行わない方が多いことから、毎食後に声がけを行い口腔内の清潔に努めている。歯に異常が見られた時は、訪問診療を依頼している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	ご本人様の動作機能や状態に合わせた排泄介助を行っている。排尿排便の確認を行いチェック表に記録したり、必要に応じた処置も行っている。ポータブルも活用している。	利用者一人ひとりの排泄状況に応じて布パンツやリハビリパンツ、尿取りパットなどを着用している。定期的に誘導が必要な方もいるが、ほとんどの利用者が自分でトイレに行くことができている。パットの汚染、交換による費用の軽減のため誘導回数を増やしたりするなどの工夫をしている。夜間のみポータブル便器を使用される方がいる。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼらん千厩 (シグナレス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分補給や食事量の確保に努めているが、排便がなかなか見られない方には、医師と相談しながら下剤を服用している方もいる。訪問看護による摘便や浣腸を行う方もいて、各々に合った排便の促しを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	利用者様の気分を伺いながら入浴の声かけを行っている。気分が乗らない時は、時間や日を変更するなど対応している。身体状況の確認と清潔保持に努め、必要な処置も行っている。	週2回の割合で入浴を提供している。拒否がある場合は時間や日にちを調整して柔軟に入浴していただくようにしている。季節に応じて菖蒲湯や柚子湯のほか、保湿剤入りの入浴剤も使用している。職員と1対1でコミュニケーションがとれるひと時にもなっている。皮膚や身体状況など訪問看護師にも随時確認してもらったり、水虫の方は毎日足の洗浄を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣により活動に参加されたあと少し休まれたり、お昼寝されるよう声をかけている。夜間、医師の指示により眠剤を服用する方もいらっしゃるの、服薬介助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方された薬の説明書を保管し、いつでも確認できるようにしている。保薬や内服漏れがないよう、複数の職員で確認してから服薬している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼらん千厩 (シグナレス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お手伝い活動を通じて、役割を感じていただけるよう機会を設けている。趣味活動や散歩など意向に沿って対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	お花見ドライブや、職員の用足しの際と一緒に出掛けるなど、外出機会を設けている。ご家族様と一緒に自宅へ外出したり旅行に行く方もおり、感染予防に配慮しながら、楽しみを得る機会を作ることを大切にしている。	日常は事業所周辺や近所の館山公園まで散歩に出かけたり、日向ぼっこで過ごしている。季節ごとに桜、つつじのお花見や、リンゴ狩りなどのほか、2カ月に1回程度出身地別にドライブに出かけ自宅周辺を巡っている。半数以上の利用者が家族の希望で外出されており、家族の対応が難しい方については職員が一緒に出かけるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いを出納帳、金庫にて職員が管理している。ご希望・ご要望や受診時などを利用して、買い物を行うよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人様やご家族様より希望があった際には、電話をかけて会話していただいている。また、毎年年賀状を送付しているが、利用者様に一筆書いていただくなどして楽しみを感じていただいている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼらん千厩 (シグナレス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	レクリエーション活動で作った作品や、イベントの際の写真を廊下や玄関に掲示している。活動を忘れてしまっても、写真に残すことで思い出し、話に花を咲かすことができている。台所は利用者に近い位置にあることから、音や匂いを感じていただけるようになっている。	ホールは、エアコン、ヒーターのほか、濡れバスタオルで加湿を行っている。玄関には繭玉で飾り付けしたり、各行事や活動の写真や折り紙の干支の馬を壁面に掲示している。観葉植物や家族持ち込みの生花なども配置されている。利用者の中には手すりや椅子の拭き掃除、床のモップ掛け、窓ふきなどの手伝いをしてくれる方もあり、それぞれが安心して過ごすことのできる共用環境が整っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールにソファを設置したり、玄関付近にもベンチを設置して好みの場所で過ごせるよう配慮している。気の合う利用者様同士で過ごせる空間作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際には、ご自宅で愛用されていた家具や服、写真などをご持参いただき、見慣れたものに囲まれて自室で過ごしたり、生活できる環境を整えている。	居室には、ベッド、椅子、エアコン、押入れ、カーテンが備え付けられている。そのほか、利用者本人、家族の希望でダンス、仏壇、家族写真、遺影、テーブルやテレビなど馴染みのものを持ち込まれている方もいるなど、清潔で居心地よく過ごせる部屋が確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室やトイレに貼り紙を行い、わかりやすいよう表示している。また、環境整備係が中心となって、危険個所の把握や整理整頓などを行い、安全な生活が送れる環境整備に努めている。		